

## ⑪ 公開実用新案公報 (U) 昭60-154117

⑥ Int. Cl. 4

B 29 C 65/04  
 // B 29 K 27/06  
     67/00  
 B 29 L 9/00

識別記号

府内整理番号

2114-4F  
 4F  
 4F  
 4F

⑪ 公開 昭和60年(1985)10月14日

審査請求 有 (全 1 頁)

⑤ 考案の名称 ポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の結合法

⑥ 実願 昭59-43532

⑦ 出願 昭59(1984)3月26日

⑧ 考案者 井上 英治 豊川市牧野町野畔54番地の19

⑨ 出願人 有限会社 井上商店 豊川市牧野町野畔54番地の19

⑩ 代理人 弁理士 柴田 肇

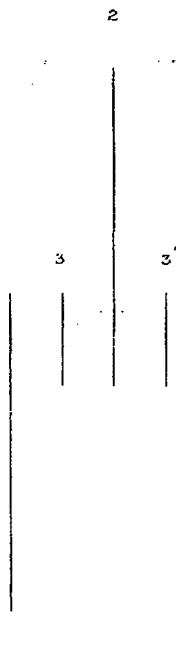
## ⑪ 実用新案登録請求の範囲

結合させるべきポリ塩化ビニールとポリエステル不織布との中間およびポリエステル不織布の外側により厚いポリ塩化ビニールを当てがつてなす

両者の結合法。

## 図面の簡単な説明

図面はポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の配列を示した断面図である。



公開実用 昭和60- 154117

④日本国特許庁 (JP)

④実用新案出願公開

④公開実用新案公報 (U)

昭60- 154117

④Int.Cl.

識別記号

厅内整理番号

④公開 昭和60年(1985)10月14日

B 29 C 65/04  
// B 29 K 27:06  
67:00  
B 29 L 9:00

2114-4F  
4F  
4F  
4F

審査請求 有 (全 頁)

④考案の名称 ポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の結合法

④実 願 昭59-43532

④出 願 昭59(1984)3月26日

④考案者 井上 英治 豊川市牧野町野畔54番地の19

④出願人 有限会社 井上商店 豊川市牧野町野畔54番地の19

④代理人 弁理士 柴田 肇

## 明細書

### 1. 考案の名称

ポリ塩化ビニールとポリエスチル不織布の結合法

### 2. 実用新案登録請求の範囲

結合させるべきポリ塩化ビニールとポリエスチル不織布との中間およびポリエスチル不織布の外側によい厚いポリ塩化ビニールを当てがつてなす両者の結合法。

### 3. 考案の詳細を説明

農業用ビニールハウスに使用されているビニール部分の一部には、これに付着する水滴を除去するために、ポリエスチル不織布が用いられているが、ビニール部分を構成しているポリ塩化ビニールとポリエスチル不織布を結合させるには高周波を利用して圧力をかける方法が一般的である。

この場合において、従来は、厚さ0.05ミリメートルないし0.07ミリメートルのポリ塩化ビニールとポリエスチル不織布とを単純に

( 1 )

実開60-154117

148

重ね合わせるだけであるが、この方法にあっては、結合度が弱く容易に剥離するという欠点が指摘されており、その改良が望まれていた。

本考案は、まさにポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の結合部分の剥離の防止を企図したものであって、これを図面によつて説明すると、結合させるべきポリ塩化ビニール1（通常は厚さ0・05ミリメートルないし0・07ミリメートル）とポリエステル不織布2との間に（3）およびポリエステル不織布の外側（3'）に厚さ0・13ミリメートルないし0・2ミリメートルのポリ塩化ビニールを当てがつて高周波により押圧するものである。

この方法によるときには、1、3および3'のポリ塩化ビニールの表面が融解して2のポリエステル不織布に組み込まれるために、これとの結合が強化されることとなる。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面はポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の配列を示した断面図である。

(2)

回

面

2

3

3

1

代理人弁理士 柴 田 肇  
150

実効 60-154117

BEST AVAILABLE COPY